

あの日から10年、寄せられたメッセージ



遠藤 純男さん
〈柔道家〉

突然襲った東日本大震災から10年が過ぎる。しかし余震が頻繁に起きている状況を見ると、完全に終息するのは歳月がかかると思われる。津波の被災地では、海上保安庁が不明者の捜索活動を酷寒の海中で行った。郡山市内での汚染土壌の処理は完了したとはいえ、汚染水の処理や今後の原発の課題が山積している。

郡山、福島、東北の一日も早い完全復興を心から願っている。



大野 均さん
〈元ラグビー選手〉

震災により大きく傷つき、それでもたくましく立ち上がり、前に進んできた故郷、郡山。その姿に勇気づけられ、私もラグビー選手として、チームの為、仲間の為、傷つき倒れても、また立ち上がり、走り続けることが出来ました。10年が経った今なお、支援が必要な人がいることに思いを馳せながら、これからも力強いこの故郷のように、前を向いていきたいと思います。



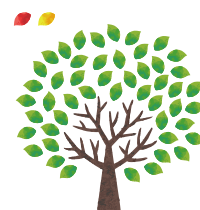
GReeeeN
〈4人組
ボーカルグループ〉

震災から10年、いまなお復興へ向かう道の間にはさまざまな方達の想いと歩みがありました。私達は震災の記憶とそれに立ち向かい続けた人々の弛まぬ努力を未来に向けて絶やさず伝えていく事が大切だと思っています。

この復興ツリーの葉のようにひとりひとりの願いが

寄り添い合いながら。

美しいふるさとと歩んでいく日々をこれからも。



小泉 武夫さん
〈農学博士〉

あの未曾有の大災害から早10年、亡くなられた多くの方々には今もって御冥福を祈らずにはおれません。しかし、いつまでも悲しがってはいは多くの犠牲者や被災者の方々につぐなうことはできない。その思いに、郡山市民は歯をくいしばって復興に立向かい、こうして今10年という節目の年を迎えました。これからも、この復興への力を絶やすことなく、また、あの日のことを忘れることなく、そしていつまたどんな災害が襲ってくるかを警戒しながら備えて、これからも市民一丸となってがんばりましょう。

東日本大震災や台風など様々な災害被害や困難を乗り越えてきた郡山市。これまでの郡山市の歩みを振り返り、本市フロンティア大使のみなさまからメッセージをいただきました。



国分 俊英さん
〈元共同通信常務理事・
編集総本部長〉

あの日、あのとき、締め切りが迫った原稿のため、自宅でパソコンに向かっていました。激しい揺れ、地鳴りのような音。恐怖心で「この世の終わりか」と思いながら家を飛び出しました。大地震に津波、それに原発事故と放射能汚染。福島県や郡山市は、私の経験などとは比較になりません。郡山の住宅にブルーシートが目立っていたころ、郡山はもとより宮城県の名取・閩上と石巻、2度の浜通り、岩手県・三陸沿岸の被災地を訪れました。川内村に行ったとき、ビッグパレットに避難した村民に会いました。「郡山も大変なのに、親切にしていだいて」と感謝していました。どこでもボランティアがガイド役として説明してくれます。市民一人一人が「語り継ぐ」ことです。それが大震災を風化させず、備えにもなるからです。



鈴木 眞雄さん
〈料理人〉

震災から10年、いろいろな風評被害がありましたが、改めて、美味しく、安全で、新鮮な郡山の農産物の良さを感じており、また、その農産物を使った美味しいお店も沢山あります。炊きだしの日に沢山の方々にカレーを食べていただき、沢山の笑顔をいただきました。美味しい料理を食べると笑顔になり、その笑顔が力になります。ぜひ、美味しい街郡山を皆さんと共に推進し、郡山のさらなる発展の原動力の一つになることを願っております。



中畑 清さん
〈横浜DeNAベイスターズ
初代監督〉

もう10年、まだ10年。その当時の現場は、啞然とする光景でした。あの時の心の衝撃は、今でも覚えています。これからどうすれば良いのだろう？私に出来ることは何かを探りながら、お役に立てればと思い、何度も被災地に訪問しました。完全に復興したとは言える状況ではありません。日が経つにつれ、当時の記憶が薄れて風化していく事が一番怖いのです。あの日のことを忘れずに、より深まった地域の絆を力に！頑張ろう！福島！



中村 よねさん
〈沖縄初の女性税理士〉

震災から10年、台風による水害・コロナウイルスの蔓延等たて続けに人類に試練が降りかかっております。こんな世紀の災難の中皆様に平凡で簡潔なエールを贈ります。どんな試練が人類に与えられても、人間は人間として「心」を大切に「誠の道」を生きるしかありません。一人一人誠をつくし、助け合って、生命を大切にしましょう。特別祈らなくとも神様は守って下さる筈です。

あの日から10年、寄せられたメッセージ



西田 敏行さん
〈俳優〉

10年という歳月は長いのか短いのか。

何事も無く平和に暮らす人にはあつという間かも知れません。

しかし、天災 人災に遭い平和な暮らしを取り戻せない人にとっては時は止まり2011年のままです。どうか全国の皆さん、せめてあの悪夢の3月11日には被災された方々の無念に思いを致して更なる復興を祈って下さい。



船山 隆さん
〈音楽学者・
音楽評論家〉

私は、指揮者の本名徹次さんとともに、3.11の10周年のイベントとして、マーラーの「千人の交響曲」の東北地方初演を計画していた。音楽史上最も巨大な作品で、オーケストラ、遠隔オーケストラ、混声合唱団2組、児童合唱団、ソプラノ3、アルト2、テノール、バリトン、バスという編成。合唱王国の郡山の祝祭合唱団、山形交響楽団、仙台フィルハーモニーの1,000人以上の音楽家たちが、郡山ユラックス熱海ないしビッグパレットふくしまの特設ステージに並ぶ。このプロジェクトは、まだ実現できていないが、復興のシンボルとして、市民のみなさんとともにぜひ実現させたいと思っている。



古川 清さん
〈元宮内庁東宮大夫〉

10年前世界は震駭した。核爆発で日本は潰滅すると思ったのである。実際は核爆発ではなく原子炉の冷却停止による水素爆発であった。ただし、放射能は発散した。

復興は順調に進んでいると思う。私はこの大震災から得られた教訓を率直に心に刻み、原子力を過度に恐れず、当時世界のトップレベルにあった日本の原子力学を取戻して欲しいと願っている。人類はもう少しの間原子力を必要としているのだ。



本名 徹次さん
〈指揮者〉

あれから10年目を迎えようとした矢先の出来事には言葉を失いました。コロナ禍の下、深い悲しみを覚えます。市民文化センターや公民館などもまた被害にあったとの事。郡山の「フロンティア精神」に「不屈」という言葉が加わるのでしょうか。「音楽に満ち溢れる郡山」が一刻も早く戻ってくることを心から祈っています。



松本 零士さん
〈漫画家〉

度重なる地震にコロナウイルス。この厳しい現状においても、空は高く、大地は青々とした生命を育んでいます。若い命とその志こそが未来を護ります。そして、それを支えるのは大人の使命。人と人、国と国とが争う時は終わりました。皆で手を繋げば、やがてそれは大きな輪となります。いつしか私たち一人一人が、明るい明日を築く強固な礎となれると信じています。



箭内 道彦さん
〈クリエイティブ
ディレクター〉

1日1日をひとつひとつ越えてきた10年を、区切りにすることも、ひと括りにすることもできません。「もう大丈夫」と前を向く人がいれば、「今が一番辛い」と言う人もいて、それぞれにそれぞれの10年と現在があるのだと思います。色々な景色を思い出します。同じ故郷を大切にする者同士、声を掛け合ってねぎらい合いたい、そんな気持ちが湧いて来ます。郡山の未来にも思いを馳せながら。



山崎 章郎さん
〈在宅医〉

私は、在宅緩和ケア医として、多くの患者さんの人生最期の旅に同行しています。その経験から言えることは、たとえ死に直面していたとしても、自分の苦悩に心から耳を傾け、具体的な困りごとを支援してくれる存在があれば、人は、どんなに困難な状況の中でも、今を生きる力を持っているということです。ご自分や、周囲の皆様の、その力を信じ、あるべき未来に向かいたいと思います。



山中 千尋さん
〈ジャズピアニスト・
作曲家〉

困難や辛い日々にも喜びを見出せる心強さを皆様に感じます。この十年震災の傷跡が十分と癒えない上にコロナ禍。昨年末には郡山で演奏の機会を頂き少しでもお役に立ちたいと思いました。どんな状況下でも音楽や芸術を愛し楽しむお気持ちが感じられ胸が熱くなり、逆に活力を頂き大変感謝しております。皆様から受けたお気持ちをお返しできるよう頑張ります。ともに明るい明日を目指して進みましょう。



湯浅 譲二さん
〈作曲家〉

僕はここ数年体調があまりすぐれませんが、今最後の作曲の仕事をしており、もう少しで完成します。この10年間復興に向け大変なご苦勞をされたと思いますが、私も最後まで頑張りますので、郡山の皆様も一緒に頑張しましょう。